

長後めぐり

ふるさと観光マップ

わたりのんびり
散策しよう

- その1 セツ木神社・諏訪神社コース
- その2 長後天満宮コース
- その3 筆子塚コース

ようこそ歴史と自然の街「長後」へ

私たちの街「長後」は、昭和30年に「長後」と「高倉」が藤沢市に合併、その後「下土棚」の一部が合流して、現在の「長後」を形成しました。鎌倉時代には、幕府重鎮の渋谷庄司重国が、この地を拠点に権勢を誇った史実も伝えられており、その後「長後宿」と呼ばれた頃には、大古道と滝山道が交差する要衝として栄えた記録も残っています。

現在は、富士山や大山をバックに緑豊かな自然と穏やかな風土に育まれ、



藤沢生まれのブドウの新品種「藤後ふじののり」は長後に開発されたものです

最近では、健康食品である古代米「黒米」の栽培も行われ、それを利用してサプリメントなどを楽しむことができます

果樹園や地場野菜の直売所も点在し、四季折々の移り変わりを楽しみに訪れる方が増加しております。自然豊かな「長後」を満喫していただくために、ふるさと観光マップ「長後めぐり」を皆様にご利用いただき、「長後」を楽しんでいただきたいと思います。

ふるさと観光マップ 長後めぐり

発行日：2012年3月31日 第1刷発行
2019年5月31日 第2刷(改訂版)発行
発行：長後地区郷土づくり推進会議
住所：藤沢市長後513番地
電話：0466(44)1622
編集制作協力：歴史散策の会
株式会社湘南よみうり新聞社

※この印刷物の内容を無断で転載することを禁じます。



- ゴール 長後駅(西口)
- 1 長後市民センター
- 2 筆子塚
- 3 善祭寺
- 4 白山神社
- 5 いすゞプラザ
- 6 旧道石碑
- 7 熊野神社
- 8 永明寺
- 9 長後駅(西口)
- スタート 長後駅(西口)

長後めぐり 一口メモ

道標 (どうひょう)
道しるべともいい、目的地までの方向を示すために路傍に設置された。江戸時代中期以降、庶民の参詣を兼ねた旅行が盛んになるにつれ増加した。四角形の石柱が多いが、庚申塔や道祖神などが道標の役割を兼ねる場合もある。

庚申塔 (こうしんとう)
中国より伝来した道教に由来する庚申信仰の供養塔。60日毎に巡ってくる庚申(かのえさる)の夜に、人体には侵入する三尸(さんし)という虫が天昇し、その人の罪を帝釈天へ告げるとされるため、この虫を抜け出させないよう徹夜する。それが徹夜の集会となり「庚申講」と呼ばれた。これを3年間18回続けた記念に建立したのが「庚申塔」である。

熊野神社
天文8年(1539)和歌山県熊野本宮大社より御合霊をこの地に御祀りし、社殿を造営した。その後、寛文11年(1671)に再建があり現在の社殿は文政13年(1830)に造営のものである。

旧道石碑
大山道は登山「大山」への登拝道。街道には不動尊や庚申塔、道標などが立ち、旅人の安全と道案内を果たしていた。前面に「左大山道」右側面に「右麓の谷道」と彫られている。なお、区画整理のため、一時的に長後市民センターに移動している。

八臂青面金剛像庚申供養塔
高さ1.2m、石造で笠塔婆型の庚申塔。この青面金剛像は三面八臂の他の庚申塔との相違点。主像は足下に邪鬼を踏まえて塔身全面に彫られている。三尊像が彫り込まれている。市指定の有形民俗文化財。

筆子塚
17世紀中頃から19世紀中頃まで善祭寺の住職により寺子屋が開かれ、下土棚や上土棚の富農の子たちが通っていた。この子どもたちのことを筆子といひ、成長した後、師匠の恩を偲んで建てた墓を筆子塚と呼んだ。ここでは、約120年の長い間、数代の住職が寺子屋を継承していたといひ、全国的にも稀である。市の文化財指定史跡として保存されている。

善祭寺
鎌倉時代、西光上人によって創建されたといわれている。何度が火災にあい古い寺宝は少ないが、本堂の聖観音菩薩坐像は胎内に聖観音の小像を収める珍しいもので、南北朝の作。本尊の阿弥陀如来立像は寛永年間(1624~1643)に、下野の弘経寺より、住職の移住に伴い招来されたといわれる。寺域内には馬頭観音、南無阿弥陀仏の名号塔などあり、墓域には寺子屋師匠の墓、筆子塚や地頭竹尾氏の墓地及び下土棚氏の墓がある。

白山神社
室町時代中期に創建されたといわれ、祭神は、菟野姫尊、伊弉諾尊、素戔嗚尊を祀る。寛文4年(1664)広田主水らによって再建され、その後社殿が造営された。お祭りは9月18日に一番近い日曜日。お神輿を担ぎ、獅子舞が町を回るのが最大の見せ場であり、下土棚祭ばやしは市指定の無形民俗文化財。また、境内の大銀杏は樹齢300年と言われ、再建当時の記念樹と考えられる。



下土棚を中心としたコース。筆子塚や八臂青面金剛像庚申供養塔など市指定の文化財が数多く点在する地域。白山神社の樹齢300年の大銀杏も見応えがある。

長後めぐり その3

筆子塚コース

永明寺
永和年間(1375~79)清深通徹禪師の創建、鎌倉円覚寺派の寺にあたる。寛永7年(1630)旗本朝岡泰勝が再建し、享和3年には甲州野村円通寺の龍峰和尚が来山して堂宇の修復に尽くした。龍峰和尚は人望が厚く当山中興の祖と言われる。明治5年(1872)に学制が制定され、長明学校がこの永明寺に開校された。なお、開山の清深禪師は中国へ留学し、帰朝後は北朝の光厳天皇の帝師となられた人で、その縁からこの寺の寺紋に菊花を許されたといわれる。また、境内墓地には鎮頭岡氏の墓碑がある。

長後市民センター
長後市民センターは、昭和31年(1956)に簡産学校を改造し長後支所としてスタートした。これを記念して植樹されたソメイヨシノは、樹高10m、幹周り2.5mの古木に成長し、長後のシンボルとして地域の人々に親しまれている。また、同敷地内には、各所から集められた石造物が置かれており、その一基一基から長後の人々の民俗信仰や生活を偲ぶことができる。

筆子塚
17世紀中頃から19世紀中頃まで善祭寺の住職により寺子屋が開かれ、下土棚や上土棚の富農の子たちが通っていた。この子どもたちのことを筆子といひ、成長した後、師匠の恩を偲んで建てた墓を筆子塚と呼んだ。ここでは、約120年の長い間、数代の住職が寺子屋を継承していたといひ、全国的にも稀である。市の文化財指定史跡として保存されている。

善祭寺
鎌倉時代、西光上人によって創建されたといわれている。何度が火災にあい古い寺宝は少ないが、本堂の聖観音菩薩坐像は胎内に聖観音の小像を収める珍しいもので、南北朝の作。本尊の阿弥陀如来立像は寛永年間(1624~1643)に、下野の弘経寺より、住職の移住に伴い招来されたといわれる。寺域内には馬頭観音、南無阿弥陀仏の名号塔などあり、墓域には寺子屋師匠の墓、筆子塚や地頭竹尾氏の墓地及び下土棚氏の墓がある。

白山神社
室町時代中期に創建されたといわれ、祭神は、菟野姫尊、伊弉諾尊、素戔嗚尊を祀る。寛文4年(1664)広田主水らによって再建され、その後社殿が造営された。お祭りは9月18日に一番近い日曜日。お神輿を担ぎ、獅子舞が町を回るのが最大の見せ場であり、下土棚祭ばやしは市指定の無形民俗文化財。また、境内の大銀杏は樹齢300年と言われ、再建当時の記念樹と考えられる。

果樹・野菜直売所

氏名・園名	電話	販売品目
A こそがふあーむ	090(8101)7156	パイン、野菜苗
B 藤田栄一	(44)3829	梨、ブドウ、野菜

収穫期等は各園にお問い合わせ下さい
※販売品目は主なものです
※2019年5月31日現在

- ゴール
- 10 泉龍寺
 - 9 稲荷大明神
 - 8 諏訪神社
 - 7 大山道標
 - 6 恵母地蔵
 - 5 せき神様
 - 4 セツ木神社
 - 3 長屋門
 - 2 東勝寺
 - 1 花と緑の長後遊歩道
- 長後駅(西口)
- スタート
- 1 仙元塚
 - 2 長後公園
 - 3 豊川稲荷
 - 4 長後天満宮
 - 5 庚申塔
 - 6 ポビー・ヒマワリ畑
 - 7 長後越いの森
 - 8 熊野神社 庚申塔
 - 9 長後市民センター
- (約6kmのコース)



長後めぐり その2

長後天満宮コース
長後駅西口をスタートして長後天満宮へ。
桜ポビー、ウバユリ、ヒマワリ、コスモスなど、お花の見どころが満載のコースです。

見ごろ時期
5月中旬(ポビー)
8月下旬(ヒマワリ)

長後越いの森
上谷公園
特別養護老人ホーム 藤沢富士白苑
ボーイスカウト 野営場

長後越いの森
身近な自然に親しむことのできる市民の憩いの場として開放されている。ウバユリの群生(7月下旬~8月初旬)は壮観。

庚申塔
熊野神社

果樹・野菜直売所

氏名・園名	電話	販売品目
A 福島グリーンズ	(44)5398	トマトなど野菜
B ひまわり園	(44)2510	梨、ブドウ、桃
C 鈴木園	080(3480)3232	梨、ブドウ、野菜
D うめちゃんえん	(44)7822	イチゴ、トマト
E 井上園芸	(44)1708	トマト、キュウリ、メロン
F 井上果樹園	(44)1159	トマトなど野菜
G 安田果樹園	(46)1712	ブドウ、梨、リンゴ
H フルーツハウス井上	(45)0506	梨、ブドウ、野菜、米、柿
I 味覚の園井上	(46)5251	梨、ブドウ、柿
J フルーツパーク長後	080(4070)9325	梨、ブドウ、柿、洋梨
K ひろみ園	070(3663)9107	トマト、キュウリ、大根
L いのうえ園芸	(44)6089	トマト、キュウリなど野菜

長後天満宮
永久年間(1113~1117)に秩父六郎基家が秩父から来て長後に城を築き、その城内に菅原道真公を祀ったのが始まり。江戸時代、寛延4年(1751)に旗本朝岡久兵衛国豊が社殿を再建した。石燈籠は市指定建造物。石造狛犬は市指定有形民俗文化財。お祭りは9月25日。

長後天満宮
この家は宝永4年(1707)富士山噴火の時の火山灰が田や畑に積もったのを掃き集めて所々に高く積んであったものを塚にしたもの。慶応2年(1866)に富士講の人々によって建設され、3丈(約9m)の高さがあったという。昭和39年(1964)に「仙元百年記念碑」が建てられた。

長後市民センター
長後市民センターは、昭和31年(1956)に補産学校を改造して長後支所としてスタートした。これを記念して植樹されたソメイヨシノは、樹高10m、幹周り2.5mの古木に成長し、長後のシンボルとして地域の人々に親しまれている。また、同敷地内には、各所から集められた石造物が置かれており、その一基、一基から長後の人々の民俗信仰や生活を偲ぶことができる。

石造物群
長後市民センターは、昭和31年(1956)に補産学校を改造して長後支所としてスタートした。これを記念して植樹されたソメイヨシノは、樹高10m、幹周り2.5mの古木に成長し、長後のシンボルとして地域の人々に親しまれている。また、同敷地内には、各所から集められた石造物が置かれており、その一基、一基から長後の人々の民俗信仰や生活を偲ぶことができる。

花

氏名・園名	電話	販売品目
M 井上園芸	(44)5804	シクラメン

収穫期等は各園にお問い合わせ下さい
※販売品目は主なものです
※2019年5月31日現在



長後めぐり その1

セツ木神社・諏訪神社コース
セツ木神社と諏訪神社を巡ります。
道端では恵母地蔵や道祖神などがお出迎え。
長後らしい農産物直売所も楽しみます。

泉龍寺
鎌倉時代に渋谷重国が、鬼門守護として薬師坐像を本尊とし、堂を建てたと伝えられている。その後御堂も壊れ、天文15年(1546)曾高時が再建して無量山泉龍寺と号した。明治3年(1870)火災により本尊薬師如来並びに什物はすべて全焼した。消失後は有志により小堂を建て、昭和5年(1930)本堂庫裡を再建した。

恵母地蔵
明和4年(1767)江戸に飢饉が襲い餓死や遊離する人々が絶えなかった。ある朝、お百姓さんが泣き声を聞き裏道に出てみると、凍死した母親の乳房をさぐりながら泣いている赤子がいた。お百姓さんはその子を引き取り、成人させ嫁がせたという。母の息絶えて赤子に乳を呑ませていたじらしさ、母性愛を村人はあわれに思い、お地蔵さまを造り、恵母地蔵と名付けた。

七ツ木神社
700年以上前(鎌倉時代より以前)に創建されたと伝えられている。祭神は源義朝を祀る。昔は辨明神社と称したが、明治初年に旧村名をとって七ツ木神社と改称された。白木造りの木目美しい鳥居をくぐり、石段を登り、狛犬を過ぎると銅鑪の美しい拜殿がある。お祭りは10月の第一土曜日。この社の鳥居は「高部型」といわれる珍しいものです。

東勝寺
南北朝時代(1300年代)、秋庭和尚によって創建された。本堂には、阿弥陀如来を安置した臨済宗円覚寺派の寺院である。執権北条高時が鎌倉の東勝寺で自刃し果てたのを悼んで、この寺が建てられたともいう。

花と緑の長後遊歩道
相模原畑かんがい事業は、昭和23年(1948)に起工し、昭和38年(1963)に完成を見た。しかし、時代の変遷と共に情勢が一変し、大部分が遊休地の状態となり、昭和45年に畑地灌漑用水路の跡地利用として長後遊歩道となった。サルベリやイロハモミジ、ヤマブキなど多くの樹木が植えられ、四季折々に花や新緑、紅葉が楽しめる。

果樹・野菜直売所

氏名・園名	電話	販売品目
A 岸田果樹園	(44)3429	ブドウ、梨、キウイ、米
B 澤野勇次	(44)0026	柿
C 青木果樹園	(44)2467	梨、ブドウ
D Aoki果樹園	(60)2624	梨、ブドウ、柿、栗
E 栗野直売所	(44)4621	野菜直売所
F 古谷果樹園	(44)1828	トマト、キュウリ他
G 廣田果樹園	(44)4843	梨、ブドウ
H 福島園	(44)3280	野菜直売所
I 野島園	(44)1840	梨、米
J 関水園	(44)2248	梨、トマト、イチゴ
K 桑山園	(44)2238	梨、ブドウ、トマト、キュウリ
L 河原園	(46)6484	梨、柿、栗

花

氏名・園名	電話	販売品目
M 岸田緑花園	(44)6358	ベンジャミン、ドラセナ、ゴム

収穫期等は各園にお問い合わせ下さい
※販売品目は主なものです
※2019年5月31日現在